

# パラグアイの某高等学校でクリエイティブドラマ教授法を用いた中国語授業の学習効果に関する研究

## Teaching with Creative Drama in a Chinese class for Paraguayan senior high school students and its effect on students' learning outcomes

蔡 喬育(Cai, Qiao Yu)

言語教育学科

(Department of Language and Literacy Education)

国立台中教育大学

(National Taichung University of Education)

台中・台湾(Taichung, Taiwan)

iku@mail.ntcu.edu.tw

**要旨**—イノベーションを提唱したクリエイティブ教育の時代に、クリエイティブドラマ教授法を使用して、中国語教育に用いたことは、新しいトレンドである。本研究の目的は、パラグアイの某高等学校の中国語授業でクリエイティブドラマ教授法を運用し、学期課程終了後、インタビュー調査法により、異なる中国語レベルの3名のパラグアイの高校生の学習効果を把握する。本研究発見：学生は教師が運用したクリエイティブドラマ教授法の中国語の授業が、彼らにとって初体験で、活発で更に生き生きとしたうえに独創的と考える。第二に、中国語学習の課題を達成するために合作学習は効果的な使用である。第三に、学生は自発的に中国語を学ぶ。第四に、学生の中国語コミュニケーションスキルが強化される。第五に、学生が中国語を勉強する意欲と興味が高まる。

**Abstract**—In today's era of promoting innovation and creative education, teaching with creative drama (TCD) in foreign language classes is a new trend. This study's purpose is to explore the effects of TCD in a Chinese class on the learning outcomes of Paraguayan senior high school students. Three students with low, medium and high Chinese proficiency levels in the class were interviewed at the end of the semester. The findings of this study are as follows: 1. It was the first time the students had learned Chinese with creative drama, and they felt learning Chinese was more fun with TCD; 2. TCD allowed the students to achieve the learning objectives through cooperative learning; 3. TCD made the students learn Chinese spontaneously; 4. TCD enabled the students to strengthen their oral communication skills; and 5. TCD motivated and made the students interested to learn Chinese.

**キーワード**—パラグアイ、高等学校、クリエイティブドラマ教授法、中国語教育、学習効果

**Keywords**—teaching with creative drama (TCD); teaching Chinese as a foreign language (TCFL); teaching Chinese in Paraguay; Paraguayan senior high school students; learning outcomes

### I. はじめに

21世紀のグローバル化と国際化の時代の中、外国語を備える能力は国際交流に向けた必要不可欠なツールです。近年では、各国高等教育機構は積極的に国際交流を拡大し、英語に加え、中国語能力の学生が重要な政策の一つとなっている。

海外進出する台湾と中国大陸の中国語文化教育者の人数が増えるに連れて、徐々にすべての中国語学習者が高い学習意欲を持っているわけではないことを認識する。台湾と同じように、英語学習に興味がない学生もいれば、モチベーションが低く、成績も良くないが、それでも同じ英語を取得している。海外で中国語を教える際、教師はそのような低いモチベーションに遭遇し、受動的な中国語学習者が一般的である。したがって、そのような中国語学習者の動機づけを高めるために効果的な教授法をどのように使用するのか。海外の中国語教育が正面から直面して解決しなければならない問題となっている。

いずれの第二言語の教授方法にも利点と限界がある。この研究は、クリエイティブドラマ教授法が中国語の授業がより活気あふれ、生き生きとし、同じでない中国語学習環境を学生に提供することを可能にするかもしれないことを示唆している。したがって、この研究は、パラグアイの某高等学校の中国語の授業でクリエイティブドラマ教授法を運用し、そして、学期課程終了後、インタビュー調査法により、異なる中国語レベル3名のパラグアイ高校生の学習効果を把握する。

## II. 文献討論

「クリエイティブドラマ」は、アメリカの演劇教育者、W・ワード (W. Ward) が作成。ワード氏は1930年に「クリエイティブな演劇」(Creative dramatics)を出版した。最初に「クリエイティブドラマ」(creative drama)という言葉を使用し、即興で非公式(non-exhibitional)のプロセス中心(process-centered)のドラマ形式。参加者は、指導者や教育者の指導の下、人々の生活経験を想像し、制定し、反映する(Phillips, 1999)。伝統的に、クリエイティブドラマは、子供や青年にとって独創的な活動と考えられているが、実際には、すべての年齢の人々が適用される。クリエイティブドラマ活動は、参加者が自分のアイデア、信念、感情をすべて探求し、開発し、コミュニケーションし、表現するダイナミックなプロセスである。クリエイティブドラマ活動の主な目的は、参加者が俳優になるように訓練するのではなく、参加者の個人的な成長と学習を促進することである(Heining, 1993; Huntsman, 1982; Kase-Polisini, 1987; McCaslin, 2006)。

「クリエイティブドラマ教授法」という教育に用いられるクリエイティブドラマという概念は、教え方やデザイン活動のドラマの一形態であり、問題の定義、事実の発見、審議、インスピレーションと実施という5つの段階がある(Chang, 2007b)。グループ(group)、教師やリーダー(teacher/leader)、空間(space)とアイデア(ideas)の4つの基本的な要素がクリエイティブドラマ教授法活動を構成している(Kase-Polisini, 1987)。Kase-Polisini(1987)は、クリエイティブドラマ教授法には、役割の特定(role identification)、俳優における象徴的な行動(symbolic action in an actor)、協力(collaboration)という3つの主な特徴があると主張している。定義された役割、人生の役割、特定の時空構造における想像力の運用、実生活の解釈、俳優の象徴的な意味、すなわち演劇を通じて、再編成を通しての人生の経験、再編、実生活よりも現実のもの、チームワーク、つまりドラマのプレゼンテーションは、多くの人々の協力に基づく必要がある。Ward(1974)とKase-Polisini(1987)のクリエイティブドラマの解釈は、建設的な認知学習活動となるだろう。したがって、創造的なドラマ教育の基礎は、認知学習理論に由来する。

クリエイティブドラマ教授法活動の種類は、初級と上級の2種類に分けることができる。初級では、低学年の授業コースや高学年のウォーミングアップに比較的好く使われる。初級活動は、アクティビティフォーカス、体の動き、身体的、精神的なリラクゼーション、ゲーム、想像力などが含まれる。上級活動で用いられる高学年の学生には、ドラマ作成の完全性と複雑性、カリキュラムの開発を中心に活動。上級活動は、ロールプレイ、マイム、即興、ストーリーテリング、マスコットとドラマの描写が含まれる(Chang, 2007b)。

クリエイティブドラマ教授法の活動は、「探検と創造」と「実体験を通して学ぶ」を重視した活動の過程で、主導権は学習者で、他者と協力し、身体と言語の表現、対人関係と自己概念の確立、複数の知恵と文化的意識の統合を通して、学習経験を築く。近年、教育学者が運用するクリエイティブドラマ指導法を第二言語授業の研究に十分に豊富で、多くの国では、国別カリキュラム言語にクリエイティブドラマ教授法が含まれている(Chang, 2007a)。関連研究成果(Booth, 1987; Booth & Neelands, 1998; Chang, 2004; Chang, 2007a, 2007b; Flenroy, 1992; Koa & O'Neill, 1998; Lin, 2003; McMaster, 1998; Wolf, 1998)。外国語学習では、ドラマは英語を学ぶ過程で、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングという4つの要素を含むことができるため、非常に適した教育戦略である。ドラマは外国語学習をもはや抽象的なシンボルではなく、具体的な文脈とプロセスとする(Chang, 2007a)。これは、ドラマのプレゼンテーションが外国語の学習を深め、積極的な学習効果を生むことができるからである。

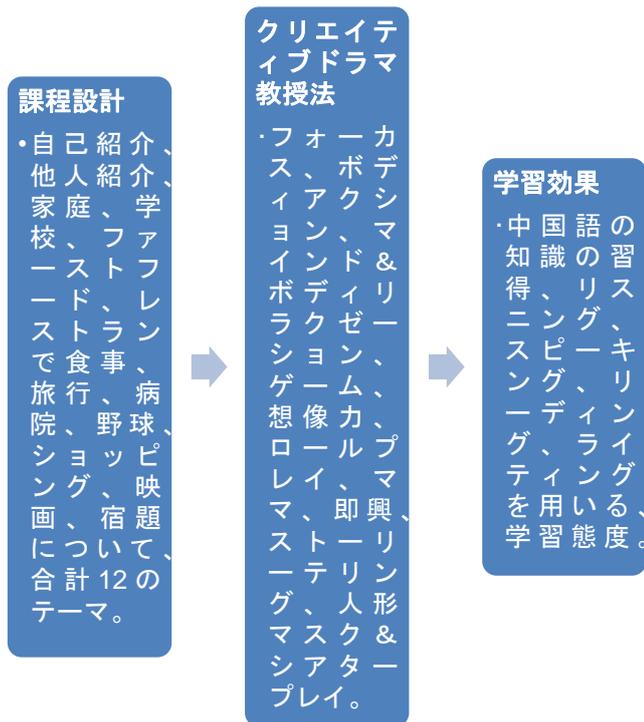
要するにクリエイティブドラマ教授法は、「クリエイティブドラマ」に基づいた教授法であり、生徒は自分の想像力を発揮することができ、内部創造と自己学習によって、表現力を高め、社会関係と自己実現の可能性が発達し、成長する。パラグアイの高校生が中国語を勉強する意欲があまりない時に、中国語の授業にクリエイティブドラマ教授法を取り入れ、一方でパラグアイの高校生の学習成果の向上に寄与し、一方は、この研究の成果が中国の教育と学習の発展を豊かにし、刺激することを願っている。

## III. 研究設計と実施

本研究は、インタビュー調査を収集、クリエイティブドラマ教授法をパラグアイ某高校の授業に用いた後、異なるレベルの学生の学習効果の分析と帰納。研究枠組み、研究者、研究ツール、実施手順、データ収集と分析、および研究倫理の説明。

### A. 研究枠組み

本研究では、パラグアイ某高等学校中国語クラスにクリエイティブドラマ教授法を運用し、自己紹介、他人紹介、家庭、学校、ファーストフード、レストランで食事、旅行、病院、野球、ショッピング、映画、宿題について合計12テーマの課程を設計。各テーマ単位で、本研究に参加しているパラグアイの中国語教師は、クリエイティブドラマの公演を行う学生の指導をする。学期課程が終了後、本研究である中国語レベル上、中、初の三名の学生から無差別にインタビューし、異なるレベルの学生の学習成果を把握する。本研究の学習成果の探求は、インタビューを受けた学生を指す。彼らは、中国語の知識を習得し、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングを用いて、学習態度を記述(図1)。



### B. 研究参加者

クリエイティブドラマ教授法がパラグアイの高校生の学習効果はどのようなものか。本研究者は、中国語レベルの上、中、初の学生の中から、無差別で三名をインタビューし、その背景情報は表 1 に示されている。

表 1 研究参加者の背景情報

偽名	性別	中国語レベル
Guay	女	上
Ra	女	中
Pa	男	初

### C. 研究ツール

定性的または定量的研究は、中国語教育研究領域の 2 つの主要分野である。本研究は主に定性的研究のインタビュー調査に基づいている。定性的研究では、研究者本人が研究ツールで、なぜならば、研究者が観察、聞き取り、明確なコミュニケーション、構築した実際のインタビューとリアルな内容である。Kao (2000) は、定性的研究において、研究者の役割は次のようなものであると主張している：1. 支持を得る創設者、2. 共感的かつ活発な聴取者、3. 鋭い観察力者、4. 意味のある通訳者、5. 効果的なコミュニケーション者。

研究者自身に加えて、別の研究ツールは、セミストラクチャーインタビューの概要にある。なぜなら本研究は、クリエイティブドラマ教授法運用後、三名の異なる中国語レベルのパラグアイ高校生の知識のなかで、技能、感情的側面がどのように変化するかを探究することを目的としている。このインタビューの概要は次のとおりです。1. 教師がクリエイティブドラマ教授法を使って中国語を教えることはどのように感じるか。2. 教師がクリエイティブドラマ教授法を用いた方法は、中国語の単語、文型、文法などを学ぶのに役立つか。なぜか。3. 教師がクリエイティブドラマ教授法を用いた方法は、聞き取り、会話、読解、文章のスキルを向上させることに役立つか。4. 教師がクリエイティブドラマ教授法を用いて中国語を教える事は好きか。なぜか。

### D. 実施手順とデータの収集の分析

実施手順にあたっては、まず本研究で関連文献を収集し、読んで分析し、探求のテーマと目的を再編成する。本研究では、現地の中国語教師と協力して、クリエイティブドラマ教授法を実施するための教師のクラスを選択する。実行時間は 2016 年の 2 学期。本研究では、中国語の研究に関連する 12 のテーマを設計し、授業にクリエイティブドラマ教授法に組み込んだ。2 学期の課程終了後、この研究ではよく設計されたセミストラクチャーインタビューの概要を使用して、授業する教師の協力インタビューを Guay、Ra と Pa 三名の参加研究者に、録音の同意の後にインタビューし、記録するために、インタビューの完全性を保存。各インタビューの長さは約 1~1.5 時間であり、最後に、オーディオファイルをワードに変換し、再分析して要約することは、本研究の目的を達成するための重要な証拠資料である。

### IV. 研究成果と議論

本研究の目的であるクリエイティブドラマ教授法を実施したパラグアイ某高等学校の中国語授業の後に、Guhua、Ra と Pa 3 名の研究所からインタビューを行った原稿を分析、要約し発見する。A. 学生は教師がクリエイティブドラマ教授法を運用する中国語の授業は、彼らにとって、初めての体験であり、話しよりも生き生きと活発で、独創的である。B. 生徒に異なる中国語学習スタイルを持たせる。C. 中国語の知識における学習の深化。D. 中国語のコミュニケーション能力を強化する。E. 中国語を学ぶ学生の動機と関心を高める。

#### A. 初の中国語授業のクリエイティブドラマ教授法の体験は、生き生きと活発で独創的であると思う

本研究では、クリエイティブドラマ教授法を用いたパラグアイの某高等学校の中国語授業は、話す教育法とは異なり、3 人の参加研究者らは初体験であり、そのような教授法は、語彙や文章文法がより生き生きと独創的である。この結果は、Chang (2007a, 2007b) の議論と一致する。例えば、上級レベルの Guay は、

「このような授業は初めてで、比較的楽しく感じ、自分の考えを持てるようになりました。」と答えた。中級レベルの Ra は次のように答えた。「初めてで、以前の授業に比べると生き生きと比較的活発でした。」初級レベルの Pa は言う：「以前中学校で似た授業がありました。以前は教科書に従って読むもので、今回は書き直さなければならぬので、比較的頭を使い、比較的活発で、眠くなく、独創的で非常に緊張しました。」

#### B. 中国語学習の課題を達成するための合作学習の効果的な利用

クリエイティブドラマの教育は、ダイナミックなプロセスを教えることになり、学生は、実際の作品のアイデア、コンセプト、感情をすべて探求し、表現し、伝達し、実行することで、中国語の学習を多様化するだけでなく、合作学習を有効に利用することで中国語学習を完成することが出来る。この結果は、Heining (1993)、Kase-Polisini (1987)、McCaslin (2006) の研究結果と一致している。例えば、上級レベルの Guay は：「私のレベルが高いので、皆はすべて私に頼むので、私はアイデアを考えるように呼びかけ、そして私は会話を書き直しました。...私は彼らにも読ませて教えて...」中級レベルの Ra は言う：「私たちはこのグループは、比較的中国語能力があるので、協力して書き直し、私も少し協力しました。中国語レベルの低い学生の練習の手伝いをしました。」初級レベルの Pa は言う：「中国語のレベルは低いので私は討論でアイデアを考え、中国語の方面は苦手だったので、私のグループ（クラスメート）が私に教えてくれました。私に簡単な部分を選んでくれたり...」

#### C. 自然に中国語を学ばせる

インタビューのデータ分析からも、クリエイティブドラマ教授法は、生徒が自発的に中国語を学ぶことができることが分かった。この発見は、Lin (2003)、Chang (2004)、Chang (2007a, 2007b) の発見と同じ見解である。たとえば、上級レベルの Guay は、「標準的な答え（学習）がないので、情報を収集して確認する必要があり、私のレベルが高いので、私はより大きな責任を負い... 実際、私は多くを学んだ、私はどのように使うことができる（言葉）か知る必要があったので、...実際には、私は多くの利益を得て...」中級レベルの Ra が言う：「私たちは仕事を分担したので、必ず自分の部分を作りあげ、グループのリーダーに見せなければなりません。恥をかかないように、必ず資料を探して設計したので、普通の授業よりも忙しく感じました。以前の授業は、ただ素直にメモを取るくらいで、何もする必要が無かったけれど、今は自分から学びたくて、達成感を味わいました。」初級レベル Pa が言う：「私は皆に合わせて、誰かに言われた事をやりました。それでも収穫はありました。以前の私は、授業で何をしているのか、何を学んでいるのか分からず、常に授業が終わるのを待っていました

が、今はチームの成績なので、恥をかくことができず、学ぶ必要がありました。」

#### D. 中国語を話す学生のコミュニケーション能力を強化

学生が自発的に中国語を学ぶこと以外に、本研究のクリエイティブドラマ教授法がリスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの能力を強化し、特に話すスキルが強化できることも発見した。学生は最後の成果を舞台上で発表しなければならないので、このような演技方法は生徒のコミュニケーション能力や表現力を強化できる。この結果は Chang の主張 (2007a, 2007b) を反映する。例えば、上級レベルの Guay は言う：「このグループの誰もが話すことができるように、私は彼らに合った文章を見つけようと努力しました。また、リハーサルもやって、対話を実践し、流暢に話せるよう練習しました。」中級レベルの Ra 答える：「...私は、この授業では、誰もが舞台上で独創的な表現を発揮できることを願いました。そのため、自分の台詞の練習や、動作と表情がうまくなるように練習しました。」初級レベル Pa が言う：「以前は、中国語で話す事が最も怖くて、笑われるのを恐れていましたが、今はグループ成績のため、ひたすら練習を続け、他の誰かに教えてもらう事が出来て...いい、以前より勇気をもって話せるようになり...リーダーも教えてくれるので、話せるようになってきました...」

#### E. 中国語を学ぶ学生の動機と興味を高める

学習から学ぶことを重視するクリエイティブドラマ教育は、学習者中心の学習です。学生は、中国語を勉強する意欲を高め、中国語学習への関心も高めている。たとえば、上級レベルの Guay は言う：「以前に比べると、このような学習方法は、放置することが許されない為、現実的に勉強しなければならないが、その代わりに、学習にもっと興味を持って、より多くの達成感を味わう事ができました。」中級レベル Ra は言う：「この様な学習方法は非常に特別で、皆と一緒に協力して、一緒に学習することで学習のモチベーションが上がり、より興味を持ちました。」初級レベル Pa は「私は中国語が好きではありませんでしたが、このような学習方法は、一緒にいると感じさせ、（学習のパートナー）、面白くて、中国語を話すことに勇気が持てて、中国語で話す事を恐れなくなりました。」と語る。

#### V. 結論

教育学者 J. Dewey は、「教育は人生」、「人生は教育」を主張し、「実体験を通して学ぶ」という課題を奨励する。クリエイティブドラマ教授法は、「やりながら学んでいく」と「実践に移す」を重視し、パラグアイの高校の中国語の授業に用いられて、このような教授法が証明され、中国語レベル上、中、初級の学生達に効果的である。本研究は、この研究の事例に基づいて将来もっと建議できるであろう。準備した実

験設計の成果は、客観的な量的データから中国語の授業に用いられるクリエイティブドラマ教授法の有効性を検証できる。

#### 参考文献

- [1] D. Booth, and J. Neelands, *Writing in role: Classroom projects connecting writing and drama*. Hamilton, ON: Caliburn Enterprises Inc., 1998.
- [2] D. Booth, *Drama worlds: The role of drama in language growth*. Toronto: Harcourt, 1987.
- [3] Hsiao-hua Chang, "Creative drama method in language teaching: Storytelling," in *Essays in the 2nd conference on English education and drama*, Tainan University of Technology, Eds. Tainan: Tainan University of Technology, 2007a, pp. 1-4.
- [4] Hsiao-hua Chang, *Creative drama teaching by principles and performance*, 2nd ed. Taipei: Grow Up, 2007b.
- [5] Wen-Lung Chang, "Apply drama techniques of readers theatre in English teaching," 2004. Retrieved from <http://plog.yejh.tc.edu.tw/gallery/206/%E6%88%B2%E5%8A%87%E6%8A%80%E5%B7%A7%E6%96%BC%E8%8B%B1%E8%AA%9E%E6%95%99%E5%AD%B8%E4%B9%8B%E9%81%8B%E7%94%A8.doc>
- [6] A. Flenroy, "Improving communication skills of first grade low achievers through whole language, creative drama and different styles of writing," 1992 [ERIC Document Reproduction Service ERIC No. 352599].
- [7] R. B. Heining, *Creative drama for the classroom teacher*, 4th ed.. Harlow, England: Pearson, 1993.
- [8] K. H. Huntsman, "Improvisational dramatic activities: Key to self-actualization?" *Children's Theater Review*, vol. 31.2, pp. 3-9, 1982.
- [9] Shu-Ching Kao, "Phenomenology in educational research," in *Qualitative research methods*, National Chung Cheng University, Eds. Kaohsiung: Liwen Publishing, 2000, pp. 93-134.
- [10] J. Kase-Polisini, *The creative drama book: Three approaches*. Alaska: Anchorage Press, 1987.
- [11] S. Koa, and C. O'Neill, *Words into worlds: Learning a second language through process drama*. Stamford, CT: Ablex, 1998.
- [12] M. C. Lin, *Creative drama theories and practice: Action research in classes*. New Taipei City: Psychological Publishing, 2003.
- [13] N. McCaslin, *Creative drama in the classroom and beyond*, 8th ed. Boston: Allyn and Bacon, 2006.
- [14] J. McMaster, "Doing' literature: Using drama to build literacy," *The Reading Teacher*, vol. 51, pp. 574-584, 1998.
- [15] S. Phillips, *Drama with children*. Oxford: Oxford University Press, 1999.
- [16] W. Ward, "Creative dramatics in elementary and junior high school," in *Children's theatre and creative dramatics*, G. B. Siks and H. B. Dunnington, Eds. Seattle: University of Washington Press, 1974, pp.132-151.
- [17] S. Wolf, "The flight of reading: Shifts in instruction, orchestration, and attitudes through classroom theatre," *Reading Research Quarterly*, vol. 33, pp. 382-410, 1998. <https://doi.org/10.1598/RRQ.33.4.3>